

令和元年度(2019年度) 第1回函館市いじめ防止対策審議会全体会  
会議記録

- 1 日 時 令和元年7月16日(火) 15時30分～17時00分
- 2 会 場 函館市役所 教育委員室
- 3 出席委員 田上直広, 鳴海清英, 漆畑英幸, 高橋奈緒美, 干山 毅, 川合裕紀子  
松浦まどか, 伊藤詠子, 伊藤繁子, 深山恵子, 中村吉秀, 澁谷昌広 計12名
- 4 欠席者 越橋理恵, 箭原信継, 多田直人
- 5 発言の要旨
- 事務局 ○ 会議の公開について確認
- 一般の傍聴者とは別の扱いになるが, 報道関係者の取材および写真撮影についてもお諮りする。  
(報道関係 ) (報道関係 ) (報道関係 ) が来ておりますが, 承認してよろしいか。
- 出席委員 ○ 異議なし
- 越橋委員の欠席を報告
- 開会
- 松田学校教 育部長 【挨拶要旨】
- 日ごろより, 函館市の教育の充実のためにご尽力いただくとともに, お忙しいところ, お集まりいただき, 心より感謝申し上げます。
- 函館市教育委員会においては, 平成29年2月に「函館市いじめ防止基本方針」を策定し, 本会の前身である「函館市いじめ等対策委員会」において, いじめの未然防止や, 早期発見・早期対応についての協議や, 重大事態に関する調査審議を進めてきたところである。さらに, 平成29年3月, 国の「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」の策定を受け, 本市における条例を制定し, 本会の設置に至った。
- 本年度は, 新たに, 委員をお引き受けいただいた5名の委員の皆様と, 昨年度から継続してお願いしている10名の委員の皆様のお力添えをいただきながら, 本会の取組を一層充実させていきたいと考えている。
- いじめの問題への対応は, 学校だけではなく, 国や各自治体においても様々な取組が行われている。しかしながら, 未だいじめを背景として, 子どもたちの生命や心身に重大な危険が生じる事案が全国で発生している状況から, 本市においても, いじめによって尊い命が失われるということが, 絶対にあってはならないという強い意識のもと, すべての子どもたちのために, 学校・家庭・地域社会を含めた, 函館市民全体でいじめの根絶に向けて, 強い決意をもって取り組んでいかなければならない。
- 平成19年に, 昭和公園で, 高校生への集団暴行という痛ましい事件が起きた。このような事件が, 二度と起きないため, 起こさせないために, 大人も子どもも一人ひとりが「いじめは絶対に許されない」, 「いじめは卑怯な行為である」との認識をもち, それぞれの役割と責任を十分自覚しなければならないものと考えている。学校や地域でも, この事件を風化させない, 同じ過ちを繰り返させないという思いのもと, 様々な活動を展開していただいている。今後とも

- 学校と地域社会が一体となって児童生徒の健全育成に努めていく必要がある。
- 委員の皆様には、日ごろ感じている児童生徒の学びや育ちに関することや、函館市の取組についてなど、忌憚のないご意見をいただきますようお願いしたい。
- 事務局
- 令和元年度函館市いじめ防止対策審議会委員と事務局員を大山教育指導課長から紹介させていただく。
- 大山課長
- (本年度委員および事務局スタッフの紹介)
- 事務局
- 議事
  - 会長と副会長の選出をする。会長・副会長の選出については、委員の互選によるものとなっているが、いかがするか。
- 委員
- 事務局に一任する。
  - 事務局に一任するという発言があったがよろしいか。(全委員から了解の声)では、事務局案を提出する。
- 大山課長
- 会長に中村委員、副会長に川合委員をお願いしたいと考えている。(全委員から異議なしの声)
  - それでは、中村会長は議長席に移動していただき、一言ご挨拶をお願いする。
- 中村会長
- この審議会が立ち上がり2年目になる。昨年度はいろいろな事業等で皆さんのお力をお借りしてスムーズに進めることができた。今年度も様々な事業等の取組や非常に厳しい事案が出た場合等には皆さんのお力をお借りして対応したい。何とか皆さんの思いを共有しながらやっていきたい。よろしく願います。
  - それでは、平成30年度の事業報告を事務局から願います。
- 事務局
- 配付資料「平成30年度 いじめ・不登校等対策推進事業」に基づき、報告と説明
  - 全体会を2回開催し、対策部会、調査部会を各1回開催した。
  - 9月に「適応指導教室」「相談指導学級」の見学を行った。
  - 11月に「いじめ等の問題について考える集会」を開催した。
  - 継続事業として、「はこだて子どもほっとライン～子どもの悩み相談電話」の開設を行った。
  - いじめ撲滅啓発に関する活動として、「いじめ撲滅啓発用リーフレットを作成し、全ての学校に配布した。
- 中村会長
- ご質問、ご意見等があれば願います。
  - よければ、続いて令和元年度の事業案を事務局から願います。

- 事務局
- 配付資料「令和元年度 いじめ・不登校等対策推進事業（案）」に基づき、事業案を説明。
  - 今年度、2回の全体会の開催を予定している。対策部会、調査部会を各1回予定している。
  - 対策部会において、「いじめ等の問題について考える集会」への出席をお願いしたい。
  - 今年度、中学校15校を拠点校とし、函館市内すべての小・中学校において、年1回以上、スクールカウンセラーを派遣する。
  - 今年度から、児童生徒、保護者および学校からの相談対応や児童生徒および保護者の実態把握、さらに保護者、学校および関係機関等との連絡調整などの支援等を目的として、福祉や教育の分野における専門的な知識、活動経験の実績等を有するスクールソーシャルワーカー（SSW）2名を配置している。
- 中村会長
- スクールソーシャルワーカーから活動について3分程度の説明をお願いする。
- SSW
- 私たちは、アルファベットの頭文字をとって通称SSWと呼ばれることが多い。SSWは関係機関等の連携・調整を図るためのコーディネーター的な役割を果たす。学校や関係機関等が連携・協力をして課題を抱えている子どもの環境に着目して課題解決を図っていく。
  - 函館にSSWは今年度から就任したが、精力的に活動してきた。学校への周知の他に、各関係機関の活動にも参加した。フリースクールでは、不登校生を抱える保護者の方と話をした。子ども食堂では、調理の準備をるところから食事まで参加した。子ども食堂が大変多くの方の支援を受けながら支えられていることがわかった。
  - 各学校から要請された事案についての対応も行ってきた。今日現在、対応件数は15件、対応人数は20名超えている。事例については、不登校が多い。その他にも様々な事例に対応している。学校訪問、家庭訪問、南北海道教育センターでの来所面談などとおして、本人の状況や本人、保護者の思いを把握をしながら、必要な関係機関へつなげることに努めている。新聞の効果が大きかったのか多くの方が「SSW」と言う名前は知っていたが、具体的な仕事についてまだまだ知られていないことが多いと思うので、職務を遂行していきたい。
- 事務局
- 函館市SNS教育相談事業の試行実施について、今年度、いじめの早期発見・早期対応を図るとともに、いじめを含む様々な悩みを抱える生徒の問題の深刻化を未然に防止するため、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS、LINE）を活用した相談を試行的に実施する。
- 中村会長
- ご質問、ご意見があればお願いしたい。
  - 各委員から、これからの活動にかかわることでのご提案やご意見があれば頂戴したい。また、ご提案やご意見でなくても、身近な子どもたちの様子や学校教育のことなど、普段考えていることについて、お話をいただきたい。
  - まずは、子どもを間近で見ている学校関係者からお願いする。
- 田上委員
- いじめや不登校については、年度当初より組織的に基本方針を決め、取り組んでいる。各学校は強い意志をもって取り組んでいるが、各アンケートや相談の中

で全くないというわけではない。

- 今は生徒が訴えてきたものについては認知しようとして積極的に動いており、いじめの解決に向けて組織的に取り組んでいる。さらに、その後の経過を見て、時間をかけて終了まで確実にしっかり見ていくということを行っている。
- 月に一度の校長会において、いじめや不登校についての交流を図っている。
- 中学校には生徒指導の先生が集まって交流する生徒指導研究協議会があり、その代表も来ているので補足してもらえればと思う。

中村会長

- 願います。

鳴海委員

- 昔から生徒指導の先生方集まる会があるが、その会の名称が今年から一部変わり、「研究」という言葉が入った。それは子どもの実態が変わってきたことをきっかけとしている。
- 見た目では気付かない子が様々なことを抱えている。そこで小さな事にも気付けるように取り組んでいる。
- SNSによるトラブルが多く、多くの学校でも見られ、校内だけではないため実態が見えなくなっている。SNSによって、子どものコミュニティが非常に広がっている。
- 我々も先進的なものに触れていこうということで、研究協議会と名称を変え、いろいろなものを我々でリサーチ・調査を進めているところである。
- 生徒指導の在り方が根本的に変わりアプローチの仕方、聞き取りの仕方、保護者対応の仕方など、これまでのやり方では対応できないことがあると想定した中で研修を進めている。
- 現在、重篤ないじめの報告はなく、昨年度もなかった。しかし、いつ起きるかわからないので、起きないように予防的・開発的生徒指導を主眼におき日々研修おこなっている。

中村会長

- 特に中学校側の事柄について話していただいた。続いて小学校側もぜひ願います。

漆畑委員

- 情報交流の中で大きな重篤ないじめはないが、必ずインターネットやSNSの問題が出ている。
- 最近多いのがT i k T o kという動画アプリを使用した問題だ。R指定があり、保護者が同意していなければ使えないはずだが、実際に使っている。そのまま気軽に個人情報を気軽に載せてしまう。
- 事実確認をしながら保護者に対応してもらい削除をしてもらっている。なかなか無くならないというのが実態はあるが、個人情報を載せてはならないというSNS等の利用に際する啓発を各学校でもしっかりと行っていかなければならない。

中村会長

- 生徒指導という側面からの説明だった。続いて、さまざまな面からフォローしていただいている保健指導の立場からお話をお願いしたい。

高橋委員

- 小学校にいて感じるのは、小学校の荒れがここ何年か前から見られるようになった。その中には発達障がいを含む支援を要する子どもが教室の中で適応できず授業が乱れてしまっている。

- また、いろいろなことで低年齢化が見られ、特に性的な関心も低年齢化していると感じる。幼いが情報だけはたくさんもっている。インターネットやSNSなどからの情報を上手に処理できない。そして、間違っただけの行動をとってしまう。
  - 20～30人の教室にそのような子どもが5人ほどいれば、学級担任一人では授業がスムーズに進められないというのが大きな問題だと思っている。
  - 昨年の資料を見たが、函館市で支援しているCAPについて、子ども達に基本的人権を通して安心・自信・自由を教えつつ、子どもがより良く生きていくという具体策のためにお金を出してもらいたい大変ありがたいと思っている。
- 中村会長
- いじめという具体的なお話と言うよりも、それが原因になるかもしれないという子どもの実態について話していただいた。学校関係者からの説明だったが、他の委員から質問等はないか。
- 伊藤詠委員
- いじめ防止対策について、どのようにアンケートは行われているか
- 田上委員
- 函館市内小中学校は全て、2回は必ず、同じ様式・内容で行っている。その他に、追加で独自のものやっている学校があったり、児童生徒との面談を年2回は行いながら実態の把握に努めている。函館市の成果として、ふれあい活動というものがある。休み時間、給食の準備時間、朝や下校時間に子どもの活動の近くについて、話しかけたり、観察することでいじめの未然防止につながっている。
- 中村会長
- 他にないか。
- 干山委員
- 昨年11月15日に児童生徒のスマホ利用宣言を決める話し合いに参加させていただいた。そこで、保護者版もつくりたいと言わせていただいた。現在、函館市PTA連合会で保護者版のネット利用三箇条をつくるにあたり、意見の集約をしている。来年度のPTAの北海道ブロックの研究大会が函館で行われ、そこで決定したものを示したいと考えている。
  - 今年度の本会の活動の中にSSWとSCの活用についてとあるが、渡島地区の生徒指導連絡協議会に参加した際に、「不登校の子どもは学校の先生との面談ではあまり正直に話してくれない。」とあった。それは、学校に不満や不安があるのに先生が家庭訪問をしての面談では正直に話せない。家庭から見ると、学校は組織で、家庭は個人で、個人が組織にものを言えないという関係性のパワーバランスが働いている。その様な中でSSWやSCが間に入って話してもらい、うまく学校に伝えたり、相談の窓口を担ってもらうことで、子どもも話しやすいと思う。時間はかかるかもしれないが、雪解けは早いかもしれないと感じました。
  - SNSの教育相談についてだが、相談がしやすい様に手を打たないと相談できない。宣伝はどのようにするのか。
- 事務局
- 現在、配布資料を作成中である。終業式までに各学校に配布依頼をしておき、相談期間が夏休み明け8月19日からを予定しているので、始業式に第二弾として、もう一度、QRコードが載せてあるチラシを配布することになっている。
- 干山委員
- 学校ネットパトロールのことだが、ものすごい膨大な量で情報量もすごく多く、一人二人でやるようなものではないと聞いている。実際どのようにやっているか

見させてもらったことがある。様々なアカウントを使い行っているが、これを専門にやっている業者にやってもらうことにならないのか。本当に本腰を入れてやらないと大変な事になると危惧している。

- 中村会長 ○ S S Wから話に付け加えることはあるか。
- S S W ○ 学校関係者ではない人が、不登校等の生徒に関わるということは大事だと思っている。様々な問題を抱えている親や子どもたちは、どのようなことを思い悩んでいるのか、何が心配なのかを解明していかなくてはならないが、外に発信できない子どもたちが多い。そういう意味では、発信する受け皿の一つとして当方がなるのかと考えている。まだ、完全な受け皿となっていないので、これから対応をしていきたいと考えている。
- 中村会長 ○ 学校ネットパトロールについてお願いします。
- 事務局 ○ 資料をご覧いただきたい。平成22年度から専門的な業者を選定し、委託して取り組んでいる。北海道教育委員会でも同様に、業者に委託しており、函館は、二段構えで、ネットパトロール事業に取り組んでいるところである。  
○ 単独でも各学校の先生方がチェックしていると聞いている。  
○ しかし、無くならない難しい問題であり、インターネットやSNSについての対策は必要と考えている。
- 中村会長 ○ 伊藤繁子委員いかがだろうか。
- 伊藤繁委員 ○ いじめっこでもいいところはある。周りの子もわかっている。いじめているところは悪いが、あの子はこんないいところがあるんだよと、同級生が評価している。そのようなところを先生方も拾ってあげられれば、子どもにも変化が見られるのではないかと思う。子どもを認めながらやればいいのかと思います。
- 中村会長 ○ 先生方は、いじめが悪くて、その子が悪いとは思っていないが、外からみるとそう感じられる場面があったんだと聞かせていただいた。
- 伊藤詠委員 ○ 昨年もCAPのことが話題になっていたが、いじめる側もいろいろ安心できない場面があるんだと感じていた。  
○ 子ども達が自分自身の人権である安心・自信・自由が守られるという状態を学校の中にかにつくられていくかということが、いじめの問題等に対しても大切だと思う。
- 中村会長 ○ 子ども全体を健やかに育てるためには、きちんとした人権のことから考えさせていくということが大切だと思う。
- 深山委員 ○ 「いじめ」という響きが自分ではあまり好ましくないと思っている。  
○ 子ども達が「自分はいじめられています」とはなかなか言いづらい。不登校の子から話を聞くが、特別な理由が無くても学校に行けないというのがすごく多い。特にいじめられたわけでもなく、何かあったわけでもなく、自分も何が何だかわ

からないけど学校に行けないという子がすごく多くなっている。

- そんな子に聞いてみると、「こんなことを言われたんだ。」というが、それがいじめだと子どもは自分からいじめられていると自分では言いたくない。そういうことを掘り起こして聞いていくと、どんな子も話してくれる。
- 子ども達は、思いを言葉にのせることが難しいので、周りの人間が声を掛けて、子どもの声を聞いてあげることが大切だとつくづく思っている。

中村会長

- 子どもからの相談は川合委員にも入ってくるのではないかなと思うが。

川合委員

- 学校が子どもと正面から向き合っているのが重大な事案はないが、SSWからもあったように、学校の外の受け皿の一つとして人権擁護委員会はあると思う。
- 電話相談もある。SOSミニレターの配布を今年度は早々に行い、早い反応があった。学校の先生や親には言いにくい内容を手紙に書いて送られるのだが、何度か手紙のやりとりをしているうちに解決が図られている。
- 中には親からの虐待・DVと疑われるものもあるので学校と協議して取り組んでいる。
- 人権教室を行っているが、保育園・幼稚園でも行っており、早い時期から人権意識をもって、人を思いやる心を育てていくということで開催している。
- 中学校で一番多いのは、ネット・スマホの安全教室である。そこから人権意識をしっかりとってもらおうよう取り組んでいる。

中村会長

- 人権擁護委員会の活動からのご説明でした。澁谷委員いかがだろうか。

澁谷委員

- 仕事が高齢者福祉介護ということから、高齢者への虐待という問題に向き合ったおり、いじめと共通する部分がある思った。
- 虐待やいじめには何かしらの社会的背景がある。その背景を追跡・分析することで改善策が見いだされるのではないだろうか。
- そうしたことからSSWが配置されたことでアセスメントをし、対応を進め、いじめや不登校への改善策を見いだすなどのいい役割を担えるのではないかなと思う。自分も社会福祉士会という中で同じような役割を担っているのだから、何かご助力できればと考えている。
- SNSのところでは、匿名性というところがいじめの助長につながっている。そこを観点とし、いじめの防止と位置付けた対策をとっていくということが大切ではないかなと思った。

中村会長

- いろいろな立場からの意見が出され、そこから見て感じたものが見えてきたと思う。

松浦委員

- 親として、市民として、大人として出席している。
- 安心して学校に行き、生きる力を学んでほしい。現実では、いじめや不登校など、心に傷を負っていて、何らかの原因で学校が安心できない場所となっていて昨年、CAPを提案させていただいた。どの子にも経験してもらいたいと思っている。
- 昨年の話題で印象的だったのが、大人のつながりが大事ではないだろうかというものだった。それが解決方法の一つであるが、実際は弱い部分でもあると思う。

小学校の低学年で不登校になると、心配で母親が仕事をやめて子どもを支えていると聞く。シングルマザーだと生活も大変になっており、不登校の問題をどうにかしたいと思いがあがる。

中村会長

- 今日はいろいろな立場の方からたくさんの意見や考えを方、ものの見方等々、学校関係者からは、現時点での状況等々の説明、いろいろ交流できてよかったと思う。我々、行政、現場、そして、いろいろな立場の皆さんとの交流によって、函館市が向かうべき、いじめ対策への方策が見えてくるものと思っている。進めてきて2年目で、まだまだいろいろな方策等というものはあると思うが、今年度いろいろな改善等を加えて進めていければと考えている。皆さんの積極的な関わりで意見を出していただきたいと思っている。
- 事務局から、連絡があればお願いしたい。

事務局

- 次回以降の予定を連絡。

中村会長

- 本日の議事が終了したため、司会を事務局に戻す。議事の進行にかかわり、委員の皆さんのご協力に感謝する。

事務局

- これをもって、令和元年度第1回函館市いじめ防止対策審議会全体会を終了する。